

談話における「動的なキャラクター」の提唱

A Proposal of “Dynamic Characters” in Discourse

李 熙 穎

Xiying Li

(要旨)

我々は、日常談話の中で他人のことを演じたり、他人にイメージを付けたりする言語行動を行うことがしばしば見られる。本稿では、テレビのお笑い番組を対象に、談話の流れの中で人間が持つキャラクターがどのように変化し、変化時にどのような役割語の使用及び発話キャラクターの表出があるかを観察する。その結果、他人や過去の自分のキャラクターを演じる【上演キャラ】と他人や自分に新たなキャラクターを付ける【付与キャラ】が検出された。これら発話キャラクターの表出は、キャラクターが特定の言語行動を行っている証拠であり、言わば動的な性質を持つ「動的なキャラクター」であると判明できた。これは従来の研究で扱われてきた人間の属性における発話キャラクター、言わば「静的なキャラクター」とは本質的に異なる。

1. はじめに¹

本稿の目的は、談話という環境の中でどのような役割語の表出があるかを観察し、それはどのような発話キャラクターと結び付き、また観察された発話キャラクター同士がどのような関連性を持つのかについて明らかにすることである。

キャラクターとは話し手が我々に与える印象やイメージであり、話し手の属性あるいは場面や状況によって、話し手の行動や話し方によって、そのイメージが形成する。

初対面の人に対して、我々は相手が持つ社会的要素、言わば性別・世代・身分・職業等によって、一定のイメージが付いてくる。例えば、老人であれば、「わし……じゃ」の話し方をするだろうという潜入意識がある。逆

に、初対面の人に対して、我々も自分の属性を強調する話し方をすると考えられる。相手が自分のことを知らないため、特徴ある話し方をすることによって、より印象に残るようにするためである。漫画に出ているキャラクターがしゃべる言葉もこのことと同様で、作者が特徴ある言葉を特定のキャラクターに使用させることによって、読者にとっては、特定のキャラクター及びそのキャラクターに関する一連の言葉も浮かべるようになる。ここで、押さえたいたのは金水敏（2003:205）での特徴ある言葉、言わば「役割語」についての定義である。以下に挙げておく。

- (1) 「ある特定の言葉づかい(語彙・語法・言い回し・イントネーション等)を聞くと、特定の人物像(年齢、性別、

* 山口大学大学院東アジア研究科博士課程 (The Graduate School of East Asian Studies, Yamaguchi University)

職業、階層、時代、容姿、風貌、性格等)を思い浮かべることができる
とき、あるいは、ある特定の人物像
を提示されると、その人物がいかにも
使用しそうな言葉づかいを思い浮
かべることができるとき、その言葉
づかいを「役割語」と呼ぶ。」

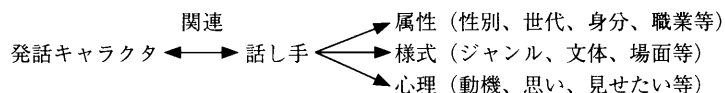
役割語と人物像は相互依存の関係であり、
役割語があることによって人物像が形成さ
れ、逆に人物像があるからこそ役割語の存在
が認められる。例えば、「御機嫌よう！」の
ような発話を聞けば、【お嬢様】を思い出し、
【お嬢様】と言えば、「御機嫌よう！」のよ
うな話し方をするだろうという共通認識が日本
語母語話者にはある。ここで、「御機嫌よう！」
は役割語であり、【お嬢様】は人物像である。
「御機嫌よう！」のような言葉は漫画にしか
出ていない言葉ではあるが、日常生活の中
では、このような役割語は使用されていないだ
ろう。役割語であっても、その特徴には程度
の差があると考えられ、漫画の中でその特徴
が顕著に現れている反面、日常生活の中では
それほど顕著ではないと考えられる。なお、
「役割語」の「語」は単語 (word) ではなく、
言語 (language) の意味である。従って、役
割語は形態素、単語、文、談話等、様々な言
語単位として表出する可能性がある。

また、我々が対面する相手が知人の場合、
この人が持つ社会的要素よりも、普段の行動
や話し方あるいは性格等によるイメージがそ
の人のキャラクタを形成するのに重要な部分
を占めている。例えば、あの人は怒りっぽい
とか子供っぽい等のようなイメージが付く場

合がある。初対面の人については、怒りっぽ
いとか子供っぽいイメージはまずない。知
り合って、一定の時間がたつと、相手の行動
や話し方によって徐々にイメージが付いてく
るのが通例である。定延利之(2006:122)では、
金水敏(2003:205)の「役割語」定義の中で
言及された人物像のことを「発話キャラクタ」
と設定し、これと関わりがある「話し手問題」
について以下のように記述している。

- (2) 「話し手問題」とは、「このことば
を話すのはどんな者か？」という問
題である。この問題に対して従来の
研究は主に「そのことばを話すのは、
こういう地域の、こういう世代の、
こういう身分・階層・職業・専門分
野の、こういう集団に属する男(あ
るいは女)だ」というように、(地
域的位相も含んだ)社会的位相を調
べることで答えようとしてきた。
もちろん社会的位相の他にも、「そ
のことばを話すのは、書き言葉の(あ
るいは話し言葉)、こういうジャン
ル・文体で、こういう場面で、こ
ういう相手と会話する者だ」といった
様式的位相からの解答や、「そのこ
とばを話すのは、これこれこのよ
うな動機(忌避の心理・美化の心理・
仲間意識・戦場心理・対人意識や待
遇意識・売り手や買い手の心理)を
持つ者だ」といった心理的位相から
の解答が、追求されてはいる。」

以上のことをまとめると [図1] になる。



[図1]

[図1] で示したように、発話キャラクターは話し手と密接な関連性があり、周囲の環境は話し手のキャラクターが成立する一つの要素ではあるが、それよりも話し手自身のことのほうがそのキャラクターの成立により大きな影響を与えていると考えられる。即ち、発話キャラクターは話し手が持つ社会的要素やどのような場面で、どのような心理で発話しているのかにも関わってくる。従来の研究では、話し手の社会的要素を基に研究されてきたとすると、これからの研究では、話し手がどのような様式や心理で発話をするのであるかという点に注目しなければならないだろう。本稿でも、定延利之（2006）でいう「発話キャラクター」という用語をそのまま使用し、以下のように定義する。

(3) 「発話キャラクター」の定義：

発話キャラクターとは、発話者の発話が、一定のキャラクターを表す時、この発話者のことを発話キャラクターと呼ぶ。なお、人間が持つ発話キャラクターは同一人にして、しばしば替わることが許される。

本稿では、このような発話キャラクターが日常談話という場面で、どのように現れ、また各発話キャラクターはどのような役割語によって成り立つのかを観察する。具体的にいうと、日常談話の流れの中で、発話キャラクターと見なされるものが表れるのか、表れるとしたらどのような形で表れるのか、そこにどのような役割語が使用され、役割語自体がどのような仕組みになっているのか、また発話キャラクター間にはどのような関連性があり、どのような性質を持ち、言わば静的であるか動的であるか等を解明することにある。

2. 先行研究

役割語に関する先行研究には、金水敏（2003）、金水敏編（2007）、金水敏編（2011）がある。金水敏（2003）では、はじめて「役割語」という概念を提出し、語彙の面から役割語を分析している。また、各役割語の起源とその歴史や役割語の種類についても記述している。ここでは、博士語、標準語、非標準語、男性語、お嬢様ことば（女のことば）、異人たちのことばといった役割語を扱っている。次に、金水敏編（2007）は役割語をテーマとした論文集であり、「対照役割語研究への誘い」と「近代マンガの言語と身体」及び「役割語研究の射程」の三部構成となっている。ここでは、役割語と他言語との対照研究及び音声的側面と身体性等について記述されている。また、米語、西洋人語、軍隊語、ピジン日本語といった役割語を扱っている。最後に、金水敏編（2011）も役割語を対象とした論文集であるが、ここでは、発話キャラクター、教育における役割語、外国語と役割語の対照研究について記述されている。また、沖縄人の役割語、幼児語やツンデレといった特異なキャラクターの役割語も扱っている。金水敏編（2007）と金水敏編（2011）では、いずれも語彙の面から役割語を分析している。

役割語の研究は現在に至って、前述の通り発話キャラクターという概念を生み出しているが、その主な観察データは漫画やシナリオ等のような既存する書き言葉である。すなわち、漫画等のデータから役割語と見られる言語形式を抽出し、これらに共通して表れる発話キャラクターを見出すのである。また、分析の単位としては、主に語彙の面からの分析が行われている。しかし、本稿では、談話を分析対象とし、談話という環境の中で、どのような役割語及び発話キャラクターが表れている

のかを観察する。

以上から分かるように、従来の研究では、【博士】や【お嬢様】といった人間の属性に注目した発話キャラクタがほとんどであった。しかし、本稿で記述するように、「～する」という言語行動が発話キャラクタを表している場合もある。しかも、このような発話キャラクタは、従来の研究対象である単語（語彙）のレベルには表れず、本稿で扱うような談話のレベルでのみ観察される。そこで、本稿では、このような言語行動に表れる発話キャラクタを「動的なキャラクタ」と呼び、従来の研究で扱われてきた属性に表れる発話キャラクタを「静的なキャラクタ」とそれぞれ呼ぶことにする。本稿での主たる目的は、この動的キャラクタの存在の検証である。

一方、研究対象の単位の観点から見ると、談話を対象とした研究も皆無ではない。テキストを分析対象としては、山口治彦（2011）がある。山口治彦（2011：31）では、テキストの中で「他人キャラ」という発話キャラクタがあると主張し、以下のように定義している。

- (4) 「話者本来の自分から離れたキャラクタを「他人キャラ」と呼ぶことに

する。」

ここでは、他人キャラとコンテキストの関係を調べている。

また、山口治彦（2011）では「他人キャラ」を、他人の言葉を再現する話者の属性として捉えているが、本稿ではキャラクタが行う言語行動として捉えている。

3. 調査要領

本節では、調査方法及びデータ提示方法について紹介する。本稿では、日本のテレビ番組、主にお笑い番組を観察対象にする。また、番組の選択に当たっては、談話を行う人数が10人以下で、発話の重なりが比較的少ないと思われる番組を採用している。さらに、番組の内容上、クイズに答えるような部分ではなく、自由に談話が行われているような部分を取り出している。採用した番組は『しゃべくり007』と『アメトーク』というお笑い番組である。その詳細を [表1] に示しておく。

[表1] に示したように、『しゃべくり007』は日本テレビの毎週月曜日の22時から22時54分の間に放送するお笑い番組である。MCが1人とレギュラーメンバーが6人、またゲスト

[表1] 番組情報

お笑い番組	『しゃべくり007』	『アメトーク』
チャンネル	日本テレビ	テレビ朝日
放送時間	毎週月曜日 22:00~22:54	毎週木曜日 22:15~23:10
人数	MC1人、レギュラーメンバー6人、ゲスト	MC2人、ゲスト数人
構成	オープニング、プロフィール紹介、店舗紹介	オープニング、プレゼン大会

[表2] 『しゃべくり 007』

	放送日	ゲスト	時間
第1次データ	2011年8月23日	新垣結衣	7分
第2次データ	2012年1月30日	9nine(女性グループ)	5分
第3次データ	2012年5月7日	小栗旬・岡田将生	13分
第4次データ	2012年6月18日	今田耕司・宮川大輔・カラテカ入江	10分

が1人から数人(10人以下)になる場合がある。データとして扱ったのは4回放送分のオープニングの部分であり、具体的には[表2]に示す。

次に、『アメトーク』の番組は、テレビ朝日の毎週木曜日22時15分から23時10分の間に放送するお笑い番組で、MCが2人とゲストが数人(15人以下)である。データとして扱った部分は、2012年4月6日に放送されたゲストが数人のお笑い芸人であるオープニングの部分(5分)である。

お笑い番組のようなテレビ番組は多かれ少なかれ脚本が存在し、しかも放送作家が番組のためにわざわざ作ったキャラクタもあると考えられる。従って、そこに表れる役割語や発話キャラクタは書き言葉におけるものと考えた方がいいかもしれない。しかし、実際の番組上での発話は、アドリブ等も含まれているため、小説等のような完全な書き言葉とも判断しがたい。そこで、本稿では、対象とするお笑い番組データを、話し言葉と書き言葉の中間にあるものとして位置付けておくことにする。

本稿では、上記の要領によって得られたデータを次のような書式で提示していく。

(5) MC: ガッキー、あの一、徳井と有田だと隣どっちがいいとかある？

G: あ (), どっちでもいいです
[笑い声]

(5)のMCは司会者を表し、他のアルファベットは出演者を表している。コロンの直後は出演者の発話である。また、括弧 () は話者が話している途中、間(ポーズ)を取っていることを表す。中括弧(ブレース)の中には言語形式以外の行動や笑い声等の音声的な

要素を記している。また、得られた全データは【付録1】に示している。

4. 分析

第3節の調査によって得られたデータを分析した結果、【上演キャラ】、【付与キャラ】と考えられる2つの発話キャラクタを見出すことができた。以下、各発話キャラクタについて詳述する。

4.1. 【上演キャラ】

我々が日常談話の中で、話におもしろさを加えたり、また生き生きとした状況を伝えたりするために、他人のまねをしたり、他人の語調で話したりするような、他人の話し方或いは自分の過去にしたような話し方を上演(再演)する行動がよく見られる。ここで、他人のキャラクタを演じる発話キャラクタは、二分できる。1つは、上演する対象である他人が特定の個人である場合である。もう1つは、上演する対象である他人が特定の個人ではなく、不特定の個人を表している場合がある。

前者の場合、さらに2つの下位範疇に分けられる。1つは、他人の言葉をそのまま再現する、言わば、他人の言葉、話す時の様子、イントネーション、態度等をまったく同じように上演する発話キャラクタである。通常「マネをする」とも言える。もう1つは、他人の言葉自体とは異なるが、その他の要素、例えば話す時の様子やイントネーションや態度等を同じく上演する発話キャラクタである。

次に、後者の場合、上演の対象が不特定の個人であるため、同じカテゴリーに属している人間が共通して所持する言葉の特徴の上演である。

また、過去の自分を演じる発話キャラクタ

は過去に自分がしゃべった言葉の上演を指す。例えば、過去にあった場面や状況等を説明するために、過去の場面に応じた自分の言葉を再現したりする場合のことである。

本稿では、以上のような【上演キャラ】を(6)のように定義する。

(6) 【上演キャラ】の定義：

現在の自分から離れた他のキャラクタを演じることを指す。他のキャラクタとは他人のキャラクタ、或いは過去の自分と将来の自分のキャラクタを言う。

以下では、上述のような【上演キャラ】を具体的に記述していく。

4.1.1. 対他的【上演キャラ】

本節では、他人のキャラクタを上演する【上演キャラ】を見てみる。他人のキャラクタを演じる【上演キャラ】は、上演する他人は特定の個人であるか、団体であるかに二分される。まず、上演する他人は特定な個人である場合を見てみる。

4.1.1.1. 個人の上演

本節では、上演する対象が特定な個人である場合の【上演キャラ】を見てみる。

(7) 06097MC：ガッキー、あの一、徳井と有田だと隣どっちが面白いとかある？

06098G：あ（）、どっちでもいいです

{笑い声}

06099J：かまへん、かまへん

06100G：かまへん、かまへん

{笑い声}

(7) の談話は、MCがゲストGにレギュラーメンバーと席を替わらせるという場面である。MCがゲストGにレギュラーメンバーである徳井と有田のうちどちらと席を替わりたかという質問をする。それに対し、Gが、すこし躊躇した後に、「どっちでもいい」という答えを返し、視聴者の笑いを取っている。その後、レギュラーメンバーの、しかも関西人キャラクタのイメージが強いJが関西弁で「かまへん、かまへん」と発話する。その直後に、もともと関西弁をしゃべらないGも関西弁で「かまへん、かまへん」のようにJのまねをして、再び笑いを取っている。下線部はGがJのキャラクタを再現する部分であり、そのまままねをし、本来の自分とは異なるJのキャラクタを演じていることから、この発話キャラクタを【上演キャラ】として設定できる。ここで、Gは【上演キャラ】であり、Jは上演の対象となっている。また、【上演キャラ】を表している役割語は「かまへん、かまへん」である。この役割語そのものには実質的な意味はなく、他人のキャラクタを演じることで笑いを取るという機能だけを果たしていると考えられる。また、上演対象はJであるが、Jが持っている【関西人キャラ】は、日本語母語話者にとって共通して認識しているようなキャラクタである。ここでは、Gが【関西人キャラ】を演じているが、関西人は大きな枠組みの団体ではないかという質問があるかも知れない。しかし、本データではJの発話の直後にGが発話し、Jのキャラクタを演じていると推測できるため、特定な個人を上演していると考えられる。これは、他人の言葉が既存し、その既存に応じる【上演キャラ】である。

次のデータを見てみる。

(8) 10112D: プライベートも敬語です、
本当にお酒を飲んできて、
ですよ

10113MC: お酒を飲むと、ねえ、
小栗君みたいな感じになる
んですか？

10114O: ま、基本的に旬君って呼
ぶんですけど、宇宙兄弟始
まる前に、始まるし、ちよっ
と飲もうか、いまお酒が
入っていい感じになってき
た岡田君が、俺、あんたに
絶対負けねえから

10115J: そんなこと言うの？

{笑い声}

10116Z: イメージないね

(8) では、ゲストのOがゲストのDのお酒を飲んだ時の様子について話をしている。Dは普段の自分は先輩のOに敬語を使用するが、お酒を飲んだ後は、ため口になると言っている。それで、MCがDの口調で「ねえ、小栗君」のようになるかと質問していた。そこで、Oは基本的に「旬君」と呼ぶが、映画の始まる前に、一緒に飲んでいたら、「俺、あんたに絶対負けねえから」と、その時のDの話を再現している。ここでは、2つの【上演キャラ】が表している。1つは、MCがDのキャラクタを、もう1つはOがDのキャラクタを上演する場合である。前者はMCが上演する側であり、Dは上演の対象である。ここでMCは実際にDが「ねえ、小栗君」のような言葉をしているかどうかは分からない。どこまでもMCの推測にすぎない。これは、(7)のデータとは違い、すでに存在している言葉の再現ではなく、推測の再現である。本研究では、このような推測の上演を「未知の上演」とする。また、後者の場合はOがDのキャラ

クタを上演することであり、Dが実際にした言葉や表情等を再現している。即ち、OはDが過去に「俺、あんたに絶対負けねえから」という話をしたことを知っており、そのまま再現することである。そこで、本研究では、すでに存在し、上演する側が経験した言葉の再現を「既知の上演」と呼ぶ。このように考えると、(7)のデータは「既知の上演」になる。次のデータを見てみる。

(9) 08011K: 歌とダンスやってます

08012J: 知ってるよ

08013K: 本当ですか

08014A: しかもセンターにいない
ところが

{笑い声}

08015A: 川島です。じゃないね

(9) では、ゲストのKとレギュラーメンバーのJとAとの談話である。Kは、現在あるグループの一員であるが、もともとソロで活動をしていた。そこで、Aは現在のKがグループのセンターにいないという発話で、視聴者の笑いを取っている。さらに、現在はすでに「川島です」と堂々と言えるような、川島の時代ではないというKの状況について言及し、Kがソロ活動をしていた時期に言っていたような言葉を再現している。したがって、現在の自分から離れたキャラクタを演じるAに表れた発話キャラクタを【上演キャラ】として設定することができる。また、上演の対象はKである。下線部の「川島です」は役割語に当たる部分で、ここでは、Aが過去のKの再現をしていると見なされる。さらに、その場にいる全員が共通して認識しているキャラクタである。Aが過去のKの再現をしたことから、「既知の上演」に見えるかもしれないが、Kが実際にそのような話をしているか

どうかはAには分からない。Aが経験していない、推測の言葉である。そこで、(8)のデータは「未知の上演」である。

また、(7)と(9)では【上演キャラ】を持つ人(上演する側)とその上演の対象が同じ場にいる場合である。(8)では、「未知の上演」になる【上演キャラ】は、上演の対象と同じ場にはいない場合、「既知の上演」になる【上演キャラ】は、上演の対象と同じ場にいる場合である。

これまでは、個人の上演を見てきた。次に、団体の上演を見てみる。

4.1.1.2. 団体の上演

本節では、上演する対象は不特定の個人、言わば団体の上演を見てみる。同じカテゴリの中に属している人の上演である。具体的には、次のデータを見てみる。

(10) 10066MC: でも、正直、ああいう、俺ら人生でない、あんなきゃ〜とかいって、いや(),うそのきゃ〜はあるよ、あの、前説のおかげのきゃ〜はあるよ、でもあの、心からのきゃ〜とかないわよ、でもほら、言われ慣れてるでしょう、例えば、あの、映画の試写会あいさつとか、舞台あいさつ、うわとかってするでしょう?

10067D: はい

10068MC: するでしょう、町とかでもうわってなるでしょう?表参道とかで、信号待ちしている時に、あれ小栗君じゃない?岡田君じゃない?うわってとか

10069H: まあ、俺らとは反応は違うな

10070O: ぜんぜんならない

(10) では、ゲストDとOの人気はどれくらいであるかという談話をしている。ここで、Hは番組のレギュラーメンバーである。10066MCで、MCは自分のような人は人気がないので、みんなも「きゃ〜」としてくれないと言って、10068MCでは、D(岡田君)とO(小栗君)に対して、表参道とかの信号待ちしている時に、「あれ小栗君じゃない?岡田君じゃない?うわっ」というファンがいるだろうという状況を演じるために、一時的にDとOのファンになっている。ここでは、MCが現在の自分から離れた他のキャラクタを演じているため、【上演キャラ】として設定できる。演じる側のMCが【上演キャラ】であり、上演の対象はDとOのファンである。これも、「未知の上演」であり、DとOのファンという属性を持つ人の集合体であるため、不特定の個人、言わば団体の上演になる。無論、MCが上演するのは、DとOのファンの中の1人である。DとOのファンであれば、誰でも上演の対象になる可能性がある。

次のデータを見てみる。

(11) 08032Y: ジャ、今日は、あの、大阪の、ショッピングモールに、あの行ったっていう

{笑い声}

08033MC: 設定まで?

08034Y: やっぱあの、リアルのイベントを演じたいので

(中略)

08037T: 待ったったんやで

(11) の談話では、ゲストのYが自己紹介

をしようと、大阪のショッピングモールに来ているような場面の設定で始まっている。その後、番組のレギュラーメンバーであるTが大阪弁の「待ったんやで」と発話し、大阪人観客を演じている。ここでいう観客は大阪人観客のカテゴリーに属している個人ということで、この個人は特定されていない。Tはもともと関西弁をしゃべらないが、ここで関西弁をしゃべる大阪人観客のキャラクタを演じることで、本来の自分から離れ、他人のキャラクタを再現する【上演キャラ】として表れている。ここで、「待ったんやで」は役割語であり、日本語母語話者にとって大阪人観客はこのような発話をするだろうという共通認識がある。この【上演キャラ】は、「未知の上演」であり、上演の対象であるのは大阪人観客である。

以上は、対他的【上演キャラ】について観察してきた。対他的【上演キャラ】は他人のキャラクタの上演であり、上演の対象はその場にいる場合としない場合がある。また、対他的【上演キャラ】は個人の上演と団体の上演に分けられている。個人の上演には、上演する側は経験がある言葉の「既知の上演」と、経験したことがない、推測の言葉の「未知の上演」がある。団体の上演には、「未知の上演」しか表れなかった。「既知の上演」である【上演キャラ】では、役割語の言語形式上においては、他人の言葉をまったく同じように再現している。「未知の上演」である【上演キャラ】は、役割語の言語形式上においては、他人の言葉をまったく同じではなく再現する場合である。さらに、「未知の上演」と「既知の上演」である【上演キャラ】は、日本語母語話者及びその場にいる全員にとって、共通して認識するキャラクタの再現に限る。

次に、対自的【上演キャラ】を見てみる。

4.1.2. 対自的【上演キャラ】

本節では、対自的【上演キャラ】について見てみる。次のデータを参照されたい。

(12) 09117MC: じゃ、あの今田さんに
そんなに気がかわないんだ

09118M: 逆に、僕、こないだ、大
輔昨日めちゃうちゃ酔うて
たなって、僕ぜんぜん覚えて
ないですけど、もう、べ
ろべろで寝てる時に、今田
さんが、大輔って言ったら、
僕は覚えてない、うるさい
お前、とか

09119I: 飲んでるって言うから行っ
た、大輔がソファーでもう、
チンパンジーみたいにこう
やって寝てて、飲みすぎて、
ちょっと冗談で上乘って、
大輔起きろうみたいな、後
輩がみんな、いま大輔さん
起こしたらだめですみたい
な、暴れます、暴れるわけ
あれへんやな、俺先輩やし
もう、普段から知っとんね
ん、で、上乘って、大輔、
起きろうたら、なんじゃ、
お前はコラァ

(12) では、ゲストのIがゲストのMのお酒を飲んだ後のことについて話している。09118Mで、Mは自分がお酒を飲んだ後のことは覚えていないと言っている。そこで、09119IではMがお酒を飲んだ後に、IがMを起こそうとしているところ、後輩がMを起こしたらだめである、暴れると言われている。そこで、Iは「暴れるわけあれへんやな、俺先輩やしもう、普段から知っとんねん」と、

その時の自分の言葉を再現している。これは、Iが過去にあった状況を説明するために、他人ではなく、過去の自分を再現している。したがって、現在の自分から離れた、他のキャラクターを演じているため、【上演キャラ】として立てられる。役割語は過去の自分の発言である「暴れるわけあれへんやな、俺先輩やしも、普段から知っとんねん」になり、上演する側は現在の自分、上演の対象は過去の自分である。これはいままでに見てきた対他的【上演キャラ】とは違い、対自的【上演キャラ】である。過去の自分と現在の自分は同じ人ではないかという問題があるかも知れないが、過去の自分とは過去の場面と状況に依る自分であり、その状況を再現すると、その時の自分に戻り、過去の場で自分が担当した役割の再現である。現在の新たな場面や状況で自分が演じたのは、過去のその場に応じた自分である。従って、過去の自分と現在の自分はまったく違う場面と状況に遭遇し、違う役割を担っているため、対自的【上演キャラ】の成立は可能である。

これまで、他人と過去の自分のキャラクターを演じる【上演キャラ】について見てきた。²次節では、他人と自分にキャラクターを付ける【付与キャラ】について見てみる。

4.2. 【付与キャラ】

本節では、【付与キャラ】について観察する。他人や過去の自分を演じるキャラクターの【上演キャラ】が存在するのと同様に、他人や自分に新たなキャラクターを付けるキャラクターも存在すると考えられる。他人にその人が持っていない新たなキャラクターを付けたり、自分に自ら新しいキャラクターを付けたりするキャラクターのことである。本研究では、このようなキャラクターを【付与キャラ】と設定し、以

下のように定義する。

(13) 【付与キャラ】の定義：

他人や自分にキャラクターを付ける
発話キャラクターのことを言う。

以下では、【付与キャラ】を具体的に見てみる。

4.2.1. 対他的【付与キャラ】

本節では、他人にキャラクターを付ける対他的【付与キャラ】について見てみる。

(14) {GとZが席を替わる。}

(中略)

06109MC：おかしいわ、最近、お休みの日は何してるんですか？

06110Z：普通にサウナに行きます

06111MC：100回聞いた、100回聞いた

(14)の談話は、ゲストのGとレギュラーメンバーであるZが席を替わった後の状況を描いた場面である。MCがゲストの席に座ったZに、「最近、お休みの日は何してるんですか？」という通常ゲストにするような質問をし、ゲストでないZをゲストのように扱っている。ゲストと席を替わったとして、キャラクターも同時に替わるわけではないが、ここで、MCがZにゲストのキャラクターを付与することによって、Zもゲストがしそうな答えをしている。このように、MCはZにゲストのキャラクターを付与する【付与キャラ】であり、付与の対象になっているのはZである。【付与キャラ】を表す役割語は「最近、お休みの日は何してるんですか？」である。ここでは、ゲストにしそうな質問をレギュラーメンバーにすることによって【付与キャラ】が

成立するため、言葉自体には実質的な意味は持っていない。また、付与するキャラクタはその場にいる全員に共通して認識があるキャラクタである。即ち、その質問自体がゲストにする質問であることは、その場にいる全員が分かっているということである。次のデータを見てみる。

- (15) 07022MC1：ええと、細長いごみ
 07023D：なんですか
 [Dが自分の足を叩く]
 07024MC2：こわこわこわ
 07025A：田中なんかね、ちょっと違うんですよ、女の子に苦手されてる芸人なんですよ
 07026D：違うんですよ、こっちが苦手なんです。こっちが主人公です。

(15) の談話では、ゲストのAとDが、女の子が苦手である芸人として紹介された場面である。しかし、AはDのことを女の子が苦手な芸人ではなく、女の子から苦手にされている芸人だというキャラクタを付与している。Aの発話の前までは、Dが持つキャラクタとしては女の子が苦手な芸人であることだったが、Aの発話によって、Dが持つキャラクタが女の子から苦手にされている芸人に替わっているのである。このように、AはDにまったく違うキャラクタを付けているため、【付与キャラ】として立てられる。付与する側はAであり、付与の対象になっているのはDである。Dにとっては、自分の意思に関わらず、他人によってキャラクタの形成が行われている。ここで、【付与キャラ】として表れた役割語は下線部にある「女の子に苦手されてる芸人なんですよ」である。これも、AがDにキャラクタを付けるある種の手段であり、そ

の言葉自体は実質的な意味は持っていない。例えば、「あの人は英語がペラペラだよ」というイメージを付けると、あの人が本当に英語がペラペラな人に見えるという場合のことである。

以上は、対他的【付与キャラ】について観察してきた。対他的【付与キャラ】は他人にキャラクタを付ける発話キャラクタであり、付与される側も必ずその場に存在する。付与する側は、その場で担当する役割に関係なく(例えばMCであったり、ゲストであったり)、誰でも付与する権利がある。

次節では、対自的【付与キャラ】について見ている。

4.2.2. 対自的【付与キャラ】

本節では、自分にキャラクタを付ける対自的【付与キャラ】について観察する。次のデータを見てみる。

- (16) 09084MC：だっていったでしょう？
 女優さんで、私が今田さんのファンなんです、という女優さんも、中には
 09085M：いや、聞いたことないです
 09086I：それはある、それはあるね、それほら、女優ってのはハンサムばかり見てるから、なかなかおらんわな
 09087F：大丈夫、大丈夫
 09088I：苦笑い、そりゃおらんで
 09089MC：冗談です。冗談
 09090I：大輔の知り合いはヒロイン級だから、俺のこと好きっていう女優さんでは、おらんわな

(16) では、女優さんの間でI(今田さん)のファンになっている人がいるかというMCの質問から始まっている。そこで、09085Mでは、ゲストのMが聞いたことがないと答えている。続いて、09086Iでは、「女優ってのはハンサムばかり見てるから、なかなかおらんわな」という発話で自分は女優の間で人気がないというイメージを付けている。また、09090Iではさらに「大輔の知り合いはヒロイン級だから、俺のこと好きっていう女優さんでは、おらんわな」という発話で再び女優に人気がないというキャラクタを付けている。Iは実際に、自分が女優の間で人気があるかどうかは分からないが、Mの答で自分が人気がないのを感じ、Mの具体的な話が出ていないにも関わらず、自分に女優の間で人気がないというキャラクタのイメージを付けている。ここで、付与する側はIであり、付与される側もIである。言わば、自分が自分にキャラクタを付ける【付与キャラ】である。役割語として現れたのは「女優ってのはハンサムばかり見てるから、なかなかおらんわな」と「大輔の知り合いはヒロイン級だから、俺のこと好きっていう女優さんでは、おらんわな」であり、これも実質的な意味は持っていない。

これまでは、対自的【付与キャラ】について見てきた。次節では、【上演キャラ】と【付与キャラ】の特徴をまとめてみる。³

5. まとめ

本節では、談話において検出された【上演キャラ】及び【付与キャラ】の特性とこの2つの発話キャラクタが持つ関連性を見出す。

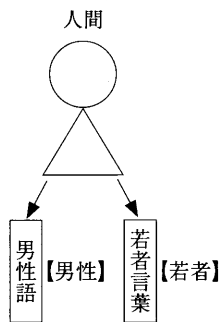
【上演キャラ】は他人や過去の自分を演じる発話キャラクタであり、役割語として表れた言葉は他人や過去の自分がそれぞれ場面と

状況に応じる発話である。その言葉自体には実質的な意味は持っていない。他人の口調と表情で話したり、過去の自分の口調や表情で話したりする発話キャラクタである。ここで、対他的【上演キャラ】と対自的【上演キャラ】が観察された。対他的【上演キャラ】は他人の上演であり、対自的【上演キャラ】は過去の自己の上演である。また、対自的【上演キャラ】の中では、さらに特定の個人の上演と団体の上演に分けられ、また既知の上演と未知の上演も現れている。特定の個人の上演は特定している1人の人の上演であり、団体の上演は同じ特性を持つあるグループの中の個人を上演する場合である。既知の上演は、上演の対象である相手が実際に話した言葉の上演であり、未知の上演は、上演の対象である相手が恐らくこのような話をするだろうという推測の上演である。

また、【付与キャラ】は他人や自分にキャラクタを付ける発話キャラクタであり、対他的【付与キャラ】と対自的【付与キャラ】に分けられる。対他的【付与キャラ】は、付与する側と付与される側が同じ場にいること、またその場で担う役割に関係なく、誰でも付与する権利がある。対自的【付与キャラ】は、自分が自分にキャラクタを付ける発話キャラクタであり、付与する側もされる側も同一人物である。また、対他的【付与キャラ】であっても、対自的【付与キャラ】であっても、自分や他人が持っていない新たなイメージを付けることで、現れた役割語には実質的な意味は持っていない。

従来の研究では、人間が持つ属性を表す発話キャラクタの出現が主になっている。例えば、男性語をしゃべる男性や博士語をしゃべる博士等がある。このような人間の属性はそう簡単には変えられないため、かなり固定したものであると考えられる。これらを「静的

なキャラクター」とも呼ぶ。また、キャラクターを単独で見ると、キャラクターの発した役割語によって、発話キャラクターが現れる。例えば、ある人が「俺、いま行く」と発話した時、男性という発話キャラクターを表している。また、この人が「超うまいな」と発話した時、若者である発話キャラクターを表す。このように、キャラクターは自分の属性を表すいくつかの発話キャラクターを持つようになる。図で表すと以下のようになる。

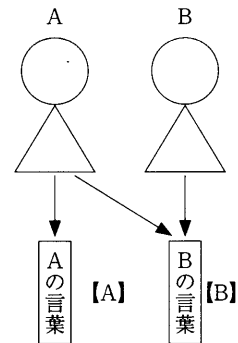


【図2】 役割語と発話キャラクターの関係図

【図2】では、人間と役割語と発話キャラクターを表記したものである。人間はいくつかの属性を持っているため、人間が持つキャラクターもこのような属性を役割語で表す場合がある。即ち、人間が自分の属性を表すいくつかの役割語を発した場合、発話キャラクターが示される。例えば、男性語や若者言葉を発した時に、男性や若者という発話キャラクターを表す場合がある。人間はいくつかの属性を持っているため、いくつかの発話キャラクターを表す場合もある。ここでは人間が持つキャラクターを単独で見える場合であり、上述のような属性を表す役割語が現れ、それ相応の発話キャラクターが示されている。以上は「静的なキャラクター」を描いた図である。

一方、本稿で観察した【上演キャラ】や【付与キャラ】は、このような「静的なキャラクター」

とは本質的に異なっている。本稿では、談話という特有な現象で表れる発話キャラクターの観察であり、いわゆる単独であるキャラクターを見るのではなく、複数になっているキャラクターを見ている。キャラクター同士が同時に登場した時に、どのようになっているかの観察である。ここでは、他のキャラクターを演じたり、他のキャラクターを付与したりする発話キャラクターが現れている。このようなキャラクターを「動的なキャラクター」と呼び、図式化すると以下のようになる。



【図3】 動的なキャラクター

【図3】では、人間は各それぞれA、Bで表記し、多数のキャラクターであることを意味している。Aは自分の発話キャラクターである【A】を持ち、Bも自分の発話キャラクターである【B】を表す場合がある。また、AはBの言葉を発することによって、Bのキャラクターを一時的に演じている意味である。これは、本稿で検出された【上演キャラ】であり、これ以外にも【付与キャラ】がある。【付与キャラ】は他人や自分に新たなイメージを付ける発話キャラクターである。無論、このような【上演キャラ】と【付与キャラ】は一時的である。【上演キャラ】であるAは他のキャラクターであるBの言葉をする事でBのキャラクターの上演をしている。これは、現在の自分から離れた他のキャラクターを演じる言語行動を行っ

ていると見なされる。また、ここで上演する側であるキャラクターは目的を持っている。ある場面や状況をより生き生きと説明するためとか、話題のおもしろさを添えるため等が考えられる。また、【付与キャラ】もこれと同様で、他人に他のキャラクターを付ける言語行動が見られ、目的も持っている。これら2つの発話キャラクターは従来の研究で指摘されなかった動的な性質を持っている「動的なキャラクター」である。

定延利之（2011）でも、動的な性質について言及しているが、話題の変更することで話者が担う役割も違ってくるという現象があると主張し、これはキャラクターがある「役割」から別の「役割」に移動する動的な性質であり、キャラクター自体は変えられないため、動的な性質を持っていないと述べている。キャラクターは1人に1つしかないものであり、変えられないという点については筆者も同じ考えである。しかし、キャラクターはいくつかの面も持ち、見る側としてそのキャラクターが違ってくる。例えば、仕事場の同僚の中では厳しいIさんが、家の中では優しいお父さんになったりする。これは、Iさんが周囲の環境によって自分の役を演じていると考えられ、従って相手によって、Iさんが表す様子や態度も違ってくる。当然、キャラクターは見る側にとってどのように認識するかの問題であり、さまざまな人からさまざまなキャラクターとして認識されるが、認識されたキャラクターの集合体がIさんになるわけである。言わば、キャラクターはいくつかの面があり、どの面にしてもこのキャラクターの一部分の反映であると考えられる。また、キャラクター同士の関係をみると、【上演キャラ】及び【付与キャラ】という発話キャラクターの表出があることによって、キャラクターは他のキャラクターの上演をしたり、他のキャラクターや自分にイメー

ジを付けたりする行動が見られ、一時的で可変的であるがゆえに動的であると考えられるのである。

6. おわりに

本稿では、談話という環境の中でどのような発話キャラクターの表出があるかを観察し、そこに現れている役割語について分析してきた。その結果、他人や自分の過去を上演する【上演キャラ】、及び自分や他人に他のキャラクターを付ける【付与キャラ】が現れていることが判明した。また、これら2つの発話キャラクターの表れは、従来の研究で指摘された、この言葉を話している人物は博士であるのか、それとも老人であるのかのような人間の属性という観点から出発したものではなく、人間同士で話をしているうちに、自分がどのような役割を担い、またこの役割によって他人にどのような影響を与えているかという観点から来たものである。従って、他人や過去の自分の上演及び他人や自分に新たなキャラクターを付ける動的な性質を持つ発話キャラクターが現れ、「動的なキャラクター」として位置付けられる。本稿では、発話キャラクターが現れた性質をキャラクターの1つの特性として捉えているが、言わばキャラクターの特性は一時的に現れる発話キャラクターの性質より反映されたものとして捉えている。そして、発話キャラクターは役割語と対応するが、役割語・発話キャラクター・キャラクターの3者の関係が明らかになっていないところ、これは今後の研究に繋がるだろう。

また、場面や状況あるいは相手によって表れたキャラクターも違ってくる、これはキャラクターの立場においての話であり、受け手がキャラクターをどのように受け取るかという認識の問題もあると考えられる。例えば、「今

日の服はかわいいね」と褒める言葉に対し、受け手としてはけなす意味に受け取るかも知れない。このような認識の問題も少なくとも存在すると考えられ、キャラクタ形成にとっても影響が生じている。従って、キャラクタの研究に当たっては受け手の認識も扱うべきであると考えられる。

また、【上演キャラ】の中では対他的【上演キャラ】と対自的【上演キャラ】が現れ、【付与キャラ】の中でも対他的【付与キャラ】と対自的【付与キャラ】が現れている。このような発話キャラクタの表れは、我々が談話の中で自分と他人の関係をいつも意識し、自分との関係を区別しようとしていることから生

じたのではないかと考えられる。従来の研究では、主に語彙という言語単位で表れた発話キャラクタの観察であり、「静的なキャラクタ」が現れている。本稿で「動的なキャラクタ」が現れたのは、談話という言語レベルを観察してはじめて表れた性質であり、談話特有な現象であるかも知れない。また、この【上演キャラ】と【付与キャラ】の2つの発話キャラクタ以外に、他の言語行動が見られる発話キャラクタが存在する可能性も大きい。現時点ではまだ検出されていない。今後、役割語の研究に様々なアプローチが適用され、さらに進展することを期待する。

注1：本稿の初期の段階において、神戸大学の定延利之先生から貴重な助言を賜った。ここに記して感謝致します。言うまでもなく、本稿における間違い等はすべて筆者の責任である。

注2：本データにおいて、【上演キャラ】は18例が見られた。

注3：本データにおいて、【付与キャラ】は4例が見られた。各発話キャラクタが表れるデータの頻度については、本稿の主旨から外れているため、扱わない。

【参考文献】

- 金田純平・澤田浩子・定延利之（2008）「コミュニケーション・文法とキャラクタの関わり」『言語』37-1 大修館書店 pp.52-59
- 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 金水敏編（2007）『役割語研究の地平』くろしお出版
- 金水敏編（2011）『役割語研究の展開』くろしお出版
- 定延利之（2005）『ささやく恋人、ききむりポーター 一口の中の文化』岩波書店
- 定延利之（2006）「ことばと発話キャラクタ」『文学』第七巻 第六号 岩波書店 pp.117-129
- 定延利之（2008）『煩惱の文法』ちくま書房
- 定延利之（2007）「キャラ助詞が現れる環境」『役

- 割語研究の地平』金水敏編 くろしお出版 pp.40-47
- 定延利之（2011）『日本語社会 のぞきキャラくり』三省堂
- 定延利之・田窪行則（1995）「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」と「あの（ー）」—」『言語研究』108 pp.74-93
- 定延利之・張麗娜（2007）「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」『日中対照言語学 研究論文集：中国語からみた日本語の特徴 日本語からみた中国語の特徴』彭飛編 和泉書院
- 田窪行則ほか編（1999）『談話と文脈』岩波書店
- 日本語音声コミュニケーション教育研究会編（2008）ワークショップ「人物像と日本語教育」配布資料（7月28日 於神戸大学）
- 橋内武（1999）『ディスコース』くろしお出版
- メイナード・泉子・K（2005）『談話表現』くろしお出版
- 山口治彦（2011）「役割語のエコロジー —他人キャラクタとコンテキストの関係—」『役割語研究の発展』くろしお出版 pp.27-47
- 吉本優子（2004）「日本語の談話における発話権交替時の発話機能と構造について」『京都精華大学紀要』27号 pp.74-84
- 吉本優子（2006）「発話権交替時における発話機能について」『京都精華大学紀要』31号 pp.66-74

【付録1】

しゃべくり_007

第1次調査データ

- 06001MC：はい、ゲストの方、誰でしょうか、おう
06002全員：えっ？
06003MC：一目惚れしてしまうナンバワンの方
06004H：惚れちゃうわけね、われわれも
06005J：いや、惚れるぞ、最近、すごいから
07006Z：ナンバワン
06007MC：ドラマですね、一目惚れしてしまうと、お迎えしましょう、この方です
{|音楽|
06008G：お願いします
06009J：これは、一目惚れしちゃう
{|笑い声|
06010MC：一目惚れした人？
06011全員：は～い
06012J：出えへんもんね、こういう番組
06013G：あんまり、そうですね
06014J：バラエティとかね
06015全員：ええ～
06015H：いや～
06016MC：島根から来てよかったな！一目惚れした？
06017島根の人：うん
06018MC：したやな、やっぱりやな
06019MC：今回、また何でお越し頂けることになったんですか？
06020G：ええっとですね、映画（）が公開中で
06021MC：お知らせがね
06022G：ハナミズキという映画が公開中で、それがきっかけですけど、あの一、見てたので、この
06023MC：あ、本当ですか、じゃ、別にお知らせとかななくても関係ないと
06024G：あると嬉しいですけど
{|笑い声|
06025MC：後ね、この番組でご覧頂いていることは、なんかほら、よく見るパターンのやつとか（）、あるでしょ
う？
{|Gが笑う|
06026MC：あれ好き、というのはあるでしょう？例えば
06027G：あれ
06028MC：あの、師匠のかまへんかまへんが好きなんですとか
06029G：私が今まで、一番爆笑したのは、松子デラックスさんとの
06030全員：うん
{|Gが押す動作をする|
06031全員：そっか
06032MC：今日松子いないんですね
06033H：スニーカ？
06034I：いやいや、そのフリないそのフリない、無理ですって
{|Hが近づいたら、Gが押し離せる、残り全員の人が順番にこの動作をする。|
06035MC：ありがたい、ありがたい！
06036 I：やられた、やられた
{|Gが笑う。|
06037MC：新垣さんにも感謝だけど、有田にも感謝で～す
06038H：かめへんかめへん、かめへんかめへん
06039MC：ぜんぜん

|映像が切り替わる。|

06040MC：女優の新垣結衣さんです

|全員が拍手する|

06041MC：まあ、できればこの一ね、あの一、勝手に距離ちじめるのもあれだけど、ガッキーなんて、こう、みんな、こう、呼べるような、

06042全員：あら、ら

06043H：呼び名決めようか？遠いでしょう、上田さんとか名倉さんとか

06044MC：あ、みんなの呼び名を

06045H：変えようよ

06046MC：その前に、ガッキーって呼んでも大丈夫？みんなで

06047G：もちろん

|全員が拍手する|

06048Z・H：やったー

06049MC：有田何て呼んでもらいたい？

06050A：僕はもう普通に有エッティで

|笑い声|

06051Z：いやいや、ガッキー

06052MC：そりゃ、ジブリ側からこちやん

|MCがばつの手振りをする|

06053A：普通に有エッティで、ぜんぜん大丈夫

06054MC：あの、有エッティで呼んでもらいます？

06055G：いいでしたら、はい

06056MC：う、うん、ちょっと呼んでみる？

06057G：じゃ、有エッティ

06058A：おう、ガッキー

|笑い声|

06059A：かまわない、かまわない

06060MC：徳井は？

06061T：ほくはトッキー

06062MC：あ、トッキーね、じゃ、ちょっとトッキーって呼んでもらえますか？

06063G：トッキー

06064T：よろしくどうぞ

06065MC：あれ？

|笑い声|

06066MC：トッキーって呼んでるのに、トッキーさんキャラじゃないですか？

06067T：トッキーさんキャラのつもりでしたけど、あの一

06068MC：違いました、久しぶりなんて

|MCが笑う|

06068MC：あ、いや、この間は、このディレクターさんと話たら、こう例えば、ガッキーとかね、例えばきれいな女優さん来るじゃんか、きれいな女優さん来ると、ええ、編集してるとよく分かるらしいんだけど、徳井がね、最初の20分ぐらい全くしゃべらないって

|笑い声|

06069MC：で、やっぱ全然しゃべんでね、どうも気に入られようとかっこついているって

06070全員：おお

06071MC：そんな感じ

06072T：いやいや

06073J：あるよあるよ、徳井はそんなことあるよ

06074A：紗季ちゃんとか

06075全員：おお

06076A：あのね、綾瀬はるかちゃんとか、太田光代さんとか気に入れたくて

|笑い声|

06077T：最後は、最後はない

- 06078MC：最後おかしいって言い方もないけどさ
06079T：緊張するんですよ、この席が
06080MC：かっこつけて
06081J：それ、もてようとしてるからね
06082T：それ独身なんで、それね、名倉さんはもう結婚してるから、まあ、もうそういうのはいいじゃないですか
06083J：おお、いいよ
06084T：一応、独身男性なんで、横はちょっとね、緊張するんですよ
06085MC：いや、でもさ、有田とか福田だって、独身男性だけどしゃべるわけじゃんか
06086T：や、ここのね、距離感も違うですよ
06087A：これ分かるね
06088MC：ちょ替わるか？有田とか、例えば
06089T：いやだ
 {笑い声}
06090A：前に行かせてもらいたいのあるよ、正直
06091T：お、替わるか？
06092MC：替わろう、もう、今日有田と
06093T：いいですか？
06094A：まじで？うわ（）、まじで
06095MC：お前も積極的にしゃべれるか？
06096T：気は楽、気は楽です、だいぶ
06097MC：ガッキー、あの一、徳井と有田だと隣どっちがいいとかある？
06098G：あ（）、どっちでもいいです
 {笑い声}
06099J：かまへん、かまへん
06100G：かまへん、かまへん
 {TとA席を替わる。}
06101A：ああ、新鮮だな、ああ
06102Z：この風景はないぞ
06103A：やっば、ちょっとね、隣は緊張するから、泰造と替わってもらってもいい？
 {笑い声}
06104MC：ガッキーはそれ固定だよ、一応替わってみる？泰造と、ちょっと替わってみるね
06105Z：いや、俺はうれしい
 {GとZが席を替わる。}
06106A：あ～落ち着く
06107Z：よかった
06108A：落ち着くわ
06109MC：おかしいわ、最近、お休みの日は何してるんですか？
06110Z：普通にサウナに行きます
06111MC：100回聞いた、100回聞いた、ゲストと違う、ちょっとおかしい
06112GとZは席を替わる。
06113G：つむじが2個あるんですね
06114MC：じゃ、有エッティ、トッキーね、潤ちゃん何にする？
06115J：俺、ナグッキーっていう
 {笑い声}
06116MC：別に最後に、キーで終わる必要ないよ
06117J：ええやんけ、もう、ナグッキー
06118MC：で、健ちゃん何にする？
06119H：俺じゃ、ほっけ
 {笑い声}
06120G：ほっけ？
06121H：ホリウチケン略してほっけ

06122MC：お、福田何する？
06123F：フッキーナ
[笑い声]
06124MC：フッキーナ、アッキーナのな感じに
06125F：フッキーナ
06126MC：じゃ、泰造は？
06127Z：俺、タイゾーン
[笑い声]
06128MC：タイゾーン、じゃ、ガッキー

第2次調査データ

08001MC：ゲストのみなさんです。
08002全員：うわ～
08003A：グループにもいるんだもんね
08004K：はい
08005MC：河島さんって、グループ活動もやってたんだ
08006K：はい
08007J：この前もきたよね
08008K：はい、もう、二回目です
08009MC：グループ活動もやってるって知らなかった
08010A：やってる
08011K：歌とダンスやってます
08012J：知ってるよ
08013K：本当ですか
08014A：しかもセンターにいないところが
[笑い声]
08015A：川島です。じゃないね
08016MC：なんで9ナインで5人組みなの？
08017K：あ、元は9人いたんです
08018A：そうなの？
08019K：そうなんです
08020MC：辞めた？
08021K：でも～、いろんな事情があり
08022S：大人の事情ですね
08023MC：大人の事情があんの？じゃ、これ以上深くは、聞かないね
08024K：すみません、まず、自己紹介をさせていただきたいですけど
08025A：考えてみれば失礼だね、自己紹介まだないんだから
08026N：はい、今日は、いつも私たちイベントでやってる自己紹介をそのままやりたい
[拍手]
08027N：みなさん、ぜひあの一
08028M：お客さんに
08029：ありがとうございます、ありがとうございます
[しゃべくりメンバーが前に座る。]
08030J：頑張れ
08031F：頑張れ
08032Y：じゃ、今日は、あの、大阪の、ショッピングモールに、あの行ったっていう
[笑い声]
08033MC：設定まで？
08034Y：やっぱあの、リアルのイベントを演じたいので
08035私たち、その日の気分で決めてるんですよ、全部
08036A：大阪ね
08037T：待とったんやで

- 08038Y: いきますよ、みなさんこんにちは
(ゲストがグループ宣伝のショーをする)
- 08039全員: これいい、これいい
- 08040Y: 大阪のみなさん、元気ですか?
- 08041全員: 元気です
- 08042Y: 今日は、ここ大阪で一番スーパーストレートロングヘアの吉井香奈恵です。かんちゃんって呼んでください
- 08043全員: かんちゃん
- 08044Y: ありがとうございます
- 08045A: (MCを指して) こいつもストレートやで
|笑い声|
- 08046A: なあ
- 08047MC: あててきたんや
- 08048S: ぷにぷにボディの黒髪ボブのロリフェイス佐武宇綺です。うっきーって呼んでください
- 08049全員: うっきー
- 08050S: ありがとうございます
- 08051はーい
- 08052A: もう終わりか
- 08053もう一人お願いしまーす
- 08054A: 誰やねん? 誰やねん?
- 08055N: 今日も明日も前髪絶好調
|笑い声|
- 08056N: 西脇彩華です。ちゃあぽんって呼んでください、よろしく申し上げます
- 08057全員: ちゃあぽん
- 08058N: ありがとうございます
- 08059M: はい、今の気持ちを体で表現したいと思います、パラグライダー (飛んでいるポーズをする) のように飛んでいきたいと思っています。村田寛奈です。ひろろって呼んでください
- 08060A: なんやそれ
- 08061M: みなさん、あの、座ったままでいいので、一緒にパラグライダーでやってもらえますか
- 08062全員: いやや、いやや
- 08063M: いや、ぜひ
- 08064A: あの人やってくれる
- 08065H: わしですか
- 08066A: 出来んの? あんた出来んの?
- 08067H: わからへん
- 08068M: せいのー、パラグライダー
|Hが飛ぶ|
- 08069A: うまいのお、じぶん、うまいのお
- 08070H: ありがとう
- 08071K: はい、えー、高校卒業間近、川島海荷です。海にーって呼んでください
- 08072全員: うみにー
- 08073A: 怪物か、怪物のほうか
- 08074K: 怪物くんです。じゃ、あの、私いま、たこ焼き食べたい気分なんですけど、誰か買ってくれる人いませんか
- 08075A: あいにく持ち合わせがなあ
- 080769: え? え?
- 08077A: 生活がちよっと圧迫されてるけど
- 08078K: 私も最近お金なくて、誰か買ってくれるひといませんか?
- 08079Z: いる? 誰か?
- 08080T: よっしゃ、ワシが買うたろ、決してうちの家計は裕福やないんや、両親二人とも入院しとる
- 08081MC: 辞めろ
- 08082T: あの子は、たこ焼き、俺は買わしてもらおう

08083A：あんたも苦しいだろう
08084T：かまへん、うちの家族はどうなってもええ、あの子にたこ焼きを
08085K：はい、マネジャーに買ってもらいます。ありがとうございました

第3次調査データ

09001H：やっぱ違うよな
09002F：なんでや
09003H：くん徳かっこいい
09004MC：お客さんもね、ビール2、3杯ひっかけて来てる
09005H：そういう時間やな
09006J：そういうのも、ええやんか
09007MC：晩御飯後ぐらい時間だしね
09008J：そうそうそう
09009MC：お、本日のゲスト紹介いたしますか？本日のゲストは最強のしゃべくりマシン軍団ですか？
09010全員：ええ～？
09011Z：マシーン
09012J：マシーン
09013H：お笑いの人と？
09014A：すみません、ちょっと、ちょ、何で写真撮ってるんですか？
09015F：ちやう、ちやう、ちやう、ちやう、ちやう、考えすぎ、考えすぎ
|カメラマンがうなずきながら、カメラで写真を取ろうとする|
|Aがメンバの後ろに身を隠れる|
|カメラマンが、また写真を撮るポーズを取る|
09016F：考えすぎや
09017徳井：週刊誌の人ですか？
09018J：大丈夫だって、お前いまほら、みんな、仲間とおるから、大丈夫、そんなにナーバスにならなくても
09019A：神経質なっちゃってる
09020Z：気にしすぎ
09021MC：あ、そうだ、ゲスト、ね、最強のしゃべくりマシン軍団、軍団ってことは複数、ってことやね、ええ、本日のゲスト、この方々！
|音楽|
09022全員：キャ～、キャ～
09023I：久しぶり、3年ぶりでしたっけ
09024J：そんな前だっけ
09025I：この時期に来たかったや、だから
09026I：この時期に話したかった
09027メンバ全員：ええ？？どうしたんですか？
09028I：真実の話しようか？(有田に向けて)
09029MC：どうぞどうぞ
09030I：聞かれへんや、意外とみんな聞かれへん、後輩なんか特に
09031T・F：聞かれない、僕ら
09032I：俺しか聞かれへん
09033MC：お願いします
09034I：電話しようかと思った、俺
09035A：毎回電話かかってくる、どこよりもえぐいだよね、質問が
09036I：もしもして言ったら、お前やったんか、やったんか、やったんか
09037H：早いですよ
09038I：今回は絶対行け！もし友達なんやったら、おすすめや
09039A：いや
09040I：芸人で、彼女のここといややってやつおれへん、じゃ、俺はこの時期に出てブッシュして、あんな嫁おったら最高や

{全員拍手}

09041I: と思ったら、と思ったら、週刊新潮で他の女と取られやがって

{IがAの首を絞る}

09042A: いやいや

09043I: 誰や?

09044全員: ええ～?

09045A: 一般の方ですよ、一般の友達、はい

09046I: どっちにすんねん?

09047A: どっちに住むの、ない、ないですよ、何にもない

09048I: みんなでゲームって、どういう事や

09049A: や、これわね

09050I: いい男がみんなとゲーム

09051MC: そうだ、そうだ

09052A: おかしい話だ、あんな、そんなね、2人が出て来て、家でゲームしてなんて、僕でも絶対疑います。

09053I: 俺、絶対違うと思います。

09054A: 本当にみんなでゴルフをやってるんですよ

09055I: 誰と?

09056A: 山崎さん、その時はいませんでしたけど、t b sのいわゆるあの子がブログでいうきんぴらごぼうさんという人ね

09057I: あ、その人と一緒に行ったやね、まあ、有田のマンションでしょう?

09058A: そうです

09059I: 家主は有田や

09060A: はい

09061I: 他の人はみんな遊びに来てるわけだから、何回も来てたら、作戦?例えば、そのきんぴらさんが、ある程度の時間きたら、(女性の声に変える)はあ～有田さん、俺明日も早いんで、そろそろ失礼するっす、え?、そうなの?やってけよ、あるでしょう?

09062A: 本当にあのままなんです、あの子はあのままなので、その2人でこう、デートしたことないんです。言うのと、みんなで、みんなでワーワーほら、いつものように行くように行くわけね

09063I: いや、そうだ、俺、この前、世界一、行ったやん

09064MC: はい

09065I: その時に、雑誌に出る前、ちょっとおかしいと思った

09066MC: おおー

09067I: 俺がおって、ローラがおって、有田がおって、で、ローラちゃんがいつものようになんかわかんないびよんって、みんながパー笑うぜ、ま、俺はね、何言うてんの、ローラとか、で、有田もおるから両方でサンドイッチでちょっと～っていうのを、有田がまた言ったらあ

09068MC: そんな有田が

09069全員: ええ～

09070A: こら、あご

09071MC: 今田さん、ゲストが一言もしゃべってないです。

09072M: 兄さん

09073J: あの、本当にちいちゃい声でいやいや、兄さん兄さん

09074J: 小さい声で全部やりましたよ

09075K: 恋愛兄さん、まったく彼女いないですからね

09076M: 行かなくていいです。僕らいますから、我々飲みましょう

09077I: 入江からも呼ばれてないですよ、もう、ぜんぜん呼んでくれへん

09078K: 違うんですよ

09079I: 女優の知り合いいっぱいおるのに、大輔も呼んでくれへん

09080MC: 何で紹介しないですか?

09081M: いやいや、紹介したいです、でも、あの、お時間が合わなくて

09082MC: いや、合わないことないです。

09083M: や、本当に兄さん、お忙しいから

09084MC: だっていったでしょう?女優さんで、私今田さんのファンなんです、という女優さんも、中に

は

09085M: いや、聞いたことないです

09086I: それはある、それはあるね、それほら、女優ってのはハンサムばかり見てるから、なかなかおらんわな

09087F: 大丈夫、大丈夫

09088I: 苦笑い、そりゃおらんで

09089MC: 冗談です。冗談

09090I: 大輔の知り合いはヒロイン級だから、俺のこと好きっていう女優さんでは、おらんわな

09091メンバ: 冗談、いるよね、いたでしょう

09092M: いるはずですよ

09093MC: いるって、いますよね

09094M: います

09095I: おった?

09096M: はい

09097I: え? おった?

09098M: います、はい

09099I: 俺初耳や

09100MC: 誰? 誰? ズバリいって誰?

09101M: あのね、バット浮かばないです、ド忘れしました

09102I: そっか、そういうことあるある

09103メンバ: あかん、あかん

09104MC: はい、今日のゲストカラテカ入江、宮川大輔、今田耕司さんです。

拍手

09105MC: さき、あのバット見たら、どうですか、やっぱりプライベートはご一緒のほうが多いですか?

09106I: 大輔は、やっぱ舞台やってるから、特に

09107MC: でもそれこそ、入江さんって、何千人の友達いるだろう、これ今田さんの好みの女子だっていうのも大体データ揃って

09108K: 揃ってます

09109MC: 紹介しないの?

09110K: けど、やっぱり理想が高いんですよ、なんか結構きれいな方いっぱい見てるんで、どんどん上上なんで、なかなか僕の友達じゃ

09111I: 昨日何してた? って聞いたら、昨日モデルと飲んでて、なんでそれ、俺呼んでや

09112 そういうの呼んでくれへん

09113MC: なんで面倒くさいの? 今田さんくると

09114K: いや、ちょっとだけ面倒、いや面倒くさいですけど

09115MC: あの、入江さん、乗るならのる、乗らないなら乗らない

09116K: 勉強します、はい

09117MC: じゃ、あの今田さんにそんなに気つかわないんだ

09118M: 逆に、僕、こないだ、大輔昨日めちゃうちゃ酔うてたなって、僕ぜんぜん覚えてないですけど、もう、べろべろで寝てる時に、今田さんが、大輔って言ったら、僕は覚えてない、うるさいお前とか

09119I: 飲んでるって言うから行った、大輔がソファーでもう、チンパンジーみたいにこうやって寝てて、飲みすぎて、ちょっと冗談で上乗って、大輔起きろうみたいな、後輩がみんな、いま大輔さん起こしたらだめですみたいな、暴れます、暴れるわけあれへんやな、俺先輩やしもう、普段から知っとんねん、で、上乗って、大輔、起きろうたら、なんじゃ、お前はコラア

09120MC: 入江が乱れたりすることは? そしたら

09121I: 入江はね、泣く

09122M: そうですね

09123MC: 泣きますか?

09124I: 泣きますね、あの、今日なんかね、自分の中で、すごい、じゃべくりにするのも、何日も前から、思ってるから

09125MC: それありがたいですね

09126I：自分の中でも、すっごい細かいことを気にするから、今日のなんか、うまく上田さんが言ってくれたのに返せなかったな、とか、そういう細かいことを全部反省して、一緒に飲んで、お前あそこの返しなあっていうたら、ま、プアーって泣きだす

09127A：あ、そうですか、今日あるの？反省みたいな

09128K：そうですね、さき乗り切れなかったどこですね

〔笑い声〕

09129メンバー：いい、いい、いい、いい

09130MC：ギャグ、ギャグ、ギャグ、俺もギャグ

09131I：ああいうことによって、よくひと笑い生まれるから、それで成立してる、で、なんか、うまく乗れなかった、乗るなら乗る、乗らないなら乗らない

09132メンバー：いいよ、いい

第4次調査データ

10001MC：婚活してんの？福田と婚活するって言った

10002A：すげえしてます。すげえしてます。あの一、福田と一度飲みに行きました

10003F：正直、行ったんです

10004全員：ええ～

10005F：そしたら、有田さんと僕と、有田さんを気に入ってる女性と、で僕を気に入ってる女性もいた

10006J：ええやんか

10007MC：2組カップルが成立する可能性が

10008A：あるある

10009F：あるんで、で、ま、そういう話にねなるのかなと思ったら、途中から有田先生が、あの、ゴルフの話

〔笑い声〕

10010J：今好きだから、はまってた

10011A：ま、ね、みんな、スポーツの話嫌いじゃないから

10012MC：ゴルフやればね

10013F：ま、ゴルフはこんな楽しみがあるんだよってという話、を始つて、そこから2時間、ゴルフの話

10014全員：ええ～

10015F：ぜんぜんゴルフをやっていない女子にですよ、で、ゴルフの打つクラブのあるじゃないですか、へっどね、へっどのどきに球が当たったら、上手く飛ぶかっていう話を延々する

〔笑い声〕

10016F：やったことない人ですよ

10017T：そんなことやり始めて、しばらくしてから考えること

10018F：それで、もう途中から、ああ、ああって、ああ、ああ、ああ、ああ

10019MC：いや、なんで、お前止まらないの？

10020MC：いや、てか、お前は、いやいや、有田さん、それは置いといて

10021F：おさまらないんですよ

10022J：お前、空気は読めるやんか、その女の子と飲んで、あれ？この話違うなって思わへんわけ？

10023A：あの、酒が入ると、もうわけが分からなくなる。みんなのことが俺に対してくれて、へえ、へえって聞いているように見える、へえ、へえ、って

10024MC：そんなに目がランランと

10025T：重症、重症

〔笑い声〕

10026A：シャフトが硬いと、うん、うん、うん

10017MC：言わねえよ、何にも知らない女の子が、シャフト、うんって言わねえ

10028A：一回トイレ行くやん、で、戻つて、話続けると、それでさあ、アイアンが、みた時の顔が

〔Aがむかつく顔をする〕

10029MC：もう気づけよ

10030A：あ、そうだったのか

〔笑い声〕

10031F：めっちゃ有田さんのこと好き

- 10032MC: それきり、その女の子2人は
 10033F: けど、一応今度みんなでゴルフに行きましょう
 {笑い声}
 10034MC: では、今日ゲストのみなさんは、しゃべくりファミリーの超イケメン俳優です
 10035全員: ええ～?
 10036MC: しゃべくりファミリーとかあった?
 10037T: 誰がファミリー?
 10038H: 何回も来てる人?
 10039J: いや、ファミリーなんかおらへん
 10040MC: 浅香光代しか浮かばない
 {笑い声}
 10041MC: はい、本日のゲストこの方です
 {OとDが登場する}
 10042全員: きゃ～
 10043J: これが本物やな
 10045H: ちょっと待って、泣いてる娘がいる、泣いてる娘がいる
 10046Z: 泣くってどういうことよ
 10047MC: 久しぶりです
 {OとDがあいさつをする}
 10048A: 一人でも、一人でも、うわあってなる
 10049MC: ダブルだからね、これ
 10050A: 1人でもいいんだよ、これ2人だぞ
 10051全員: きゃ～
 10052A: ダイナマイト・キッドとデイビーボーイ・スミス
 10053MC: お前ら、デイビーボーイ・スミスを知らない
 {笑い声}
 10054MC: ありがたいけどな、ありがたいけど、勝手にしゃべくりファミリーって出たけど、どっちがしゃべくりファミリーになってくれるの?
 10055D: 僕でも3回目なんで
 10056MC: 岡田君、結構来てくれてるね、てか、毎回誰かと一緒に来るよね
 10057D: はい
 10058J: なんで1人で来れへんの
 10059D: 1人で来たいんですけど
 10060MC: 1人でもいいんだよな、ありがたい、ありがたい
 10061J: 何回目?
 10062O: 僕2回目です
 10063J: 2回目か
 10064O: はい
 10065MC: ですよ、でも小栗旬のご結婚おめでとうございます
 {Oが腰を曲げてあいさつをする}
 10066MC: でも、正直、ああいう、俺ら人生でない、あんなきゃ～とかいって、いや ()、うそのきゃ～はあるよ、あの、前説のおかげのきゃ～はあるよ、でもあの、心からのきゃ～とかないわよ、でもほら、言われ慣れてるでしょう、例えば、あの、映画の試写会あいさつとか、舞台あいさつ、うわとかってするでしょう?
 10067D: はい
 10068MC: するでしょう、町とかでもうわってなるでしょう? 表参道とかで、信号待ちしている時に、あれ小栗君じゃない? 岡田君じゃない? うわってとか
 10069H: まあ、俺らとは反応は違うな
 10070O: ぜんぜんならない
 10071T: いやいや、きゃ～とかなるのはね、逆にね、どさんびんタレントの我々なんですよ、やっぱり出てくる、パッと見てうわ～! うわ～って言うのは、うわ～泰造とか、このね、お2人とか、ハアッ? 言葉を失う
 10072T: 声を出されてるうちは、まあ、どさんびんタレント
 {笑い声}

10073MC：どさんびんって、違う違う、アッ！とも言われないよ、俺の場合

10074A：そりゃそうでしょう

{笑い声}

10075A：何、勘違いしてる、何勘違いしてる

10076MC：はい、今日のゲスト小栗旬さんと岡田将生さんです

{拍手}

10077MC：今回、こと2人っていうことは、なんか新しいドラマとか映画とか

10078D：はい

10079MC：お、さっそく教えてください

10080O：あの、宇宙兄弟

10081MC：おお、漫画ね

10082O：やりまして、今回兄弟役やらして

10083MC：もともと仲よかったの？2人って

10084D：5年前ぐらいにドラマで一回、ご一緒させてもらって、そこ以来だった、プライベートでは何回かあって、二十歳になってから、お酒と一緒に連れてってもらったり

10085MC：おお、おお、

10086全員：え～

10087MC：岡田君にしたら、お兄さんの感じなの？

10088D：そうですね

10089J：兄貴肌っぽいですね

10090A：絶対にね、ここに来た俳優のみんな、小栗さんにはお世話になってます、なんかあるんでしょう、そういう岡田組って言ったならあれだけど、一大派閥みたいなものがある？

10091MC：いま岡田組って言ってる

{笑い声}

10092Z：なんでちょっと緊張してるんだ

10093A：必ず出てくる小栗組

10094MC：後輩の人たちを飲み連れてったり、ご飯に行ったりするの好きなんですか？

10095O：僕、もうでも、仕事場だと、一番年下だった時代が長くて、で、兄弟も僕末っ子なんで、年下すごく苦手なんで、もともと

10096MC：もともと

10097O：それを、一番最初になんかこう、慕ってついてきてくれたのが三浦春馬君っていう

10098MC：は、は

10099O：彼はすごいなんか、ご飯食べに行きましょうとかあって、そこから少し年下の免疫がついたという

10091MC：おお

10092O：で、岡田君なんか、ほとんど、なんかため口聞いてきますから

10093全員：ええ？

10094A：岡田君、大先輩に

10095D：違う違う

10096J：飲んだらため口になる

10097D：いやいや、違います、ぜんぜん違うんです

10098J：言い訳してみ？

10099D：こういう時はぜんぜん敬語です

10110MC：当たり前だろう

{笑い声}

10111MC：プライベートでもよ

10112D：プライベートも敬語です、本当にお酒を飲んできて、ですよ？

10113MC：お酒を飲むと、ねえ、小栗君みたいな感じになるんですか？

10114O：ま、基本的に旬君って呼ぶんですけど、宇宙兄弟始まる前に、始まるし、ちょっと飲もうか、いまお酒が入っていい感じになってきた岡田君が、俺、あんたに絶対負けねえから

10115J：そんなこと言うの？

{笑い声}

- 10116Z：イメージないね
 10117MC：何が？仕事面でってこと？
 10118O：宇宙兄弟っていう映画をやるにあたって、俺には負けないと
 10119MC：で、小栗君はなんで答えてた？
 10120D：あ、そっかそっか
 10121MC：優しいね
 10122H：岡田君は覚えてるの？
 10123D：ま、半々ぐらいです。言ったかな、言わなかったかなぐらい
 10124O：俺もその日絶対忘れないと思う
 10125MC：後輩にそんなこと言われたらね
 10126O：すごい、勢いあるなって
 10127MC：どうなの？実際ほら、それぐらいのお芝居ができた実感はあるの？
 10128D：ああ～
 10129MC：ああ～じゃないよ、君がね、けんかふっかけてたんだから
 10130O：あの、すごい監督が、その僕ら別々に撮ってるじゃないですか？必ずハッパをかける人で、現場に行くのと、や、岡田すごかったぞ、言ってくる
 10131MC：やっぱ刺激になるの？そういうのは？
 10132O：これ兄ちゃん受けられるのかなとか言って去っていく
 10133H：いややな
 {笑い声}
 10134MC：逆に、岡田君言われたの？その監督から、なんで言われた？
 10135D：や、昨日の小栗はやばいぞ
 {笑い声}
 10136MC：あ、そうなんだ、なるほど、そうやってお互いね、どこか地方で収録してたの？
 10137O：最後にあの、フロリダのナサに行って
 10138全員：ええ？
 10139MC：おお
 10140O：彼のナサでの打ち上げを、僕が身に行くってシーンの流れがありまして
 10141MC：おお
 10142O：その半分以上がナサで撮影して
 10143MC：へえ？やっぱナサとかすげえの？
 10144D：すごいんすよ
 10145MC：どうすごいの？
 10146D：広いんです
 10147MC：そりゃそうやろう
 10148T：そこは大前提として、ナサせまっ！てのはない、まあ、広いわね
 10149MC：どれぐらいの？
 10150D：どこからどこまでがナサなのか分からなですよ
 10151MC：へえ～
 10152T：こう入ってて、僕もナサ行くの初めてなんで、実際にナサにいったら、自分がどうなっちゃうのかな分らないですよ、もうナサに入ってますけど、ええ？
 {笑い声}
 10153T：そういう感じ？
 10154D：そういう感じですね
 10155A：あれあった？あれあった？いま俺ナサでしょうかどうでしょうか？ナサでしょう、ブ～！ナサここまで
 {笑い声}
 10156MC：区切りがないじゃない？ここからここまで、ナサっていろいろ規制が、ここは撮影しちゃだめとか、ここは入っちゃだめとか、そんなのはうるさくはない？
 10157O：たぶんいろいろあるとは思いますが、やっぱり国家機密がいっぱいあるところなんで
 10158A：宇宙人を捕らえてるのもあるでしょう、そういうのいなかったです？
 10159D：宇宙人はいなかったです

{笑い声}

10160MC: 仮に言っても、そんな簡単に見せてくれないだろう、岡田君、岡田君、ほら宇宙人って、そんな簡単に見せてくれない

10161D: そうですね

アメトーク

07001MC2: さー、みなさんは何のぐみですか?

07002A: ほくたちは

07003全員: 女の子苦手芸人です

{拍手}

07004MC1: じゃ、いま着席が一瞬ざわついたでしょう

07005MC2: さ、苦手そうだなって言う人も……

07006MC1: いるんですよ。先頭に立ってるこいつはどういうこと

07007MC2: こがは苦手……? ()

07008A: ほくは、女の子好きなんですよ

07009MC2: そうでしょう

07010MC1: 苦手というか、なんていうか、あの一、接し方がうまくないでしょうね、以前、あの一、この番組で後藤と一緒に合コンした時にこががだめだめやったと、裏では、実はね、ダメダメですよ

07011A: まあ、責任はこいつらにあるんですよ

07012MC1: いやいや、何が責任が

07013A: 今日はね、ちょっとみんなと目的が違うかもしれないです。告発します、いろいろ、女っていうもの、こんな醜い生き物だなど、俺がいままで受けてきた傷を

07014MC1: そんな集中キャラが

07015A: うけてます、はい

07016MC2: まあ、有吉と、ね、ばかりズムと若林は人見知り芸人として、出てますから

07017MC1: ロケとかで、有吉と一緒に、また女の子の田ねずさんがおったときに、何にもしゃべてないですよ

07018B: ぎりぎりこさんですね

{笑い声}

07019MC2: あれ、ばばあですから

{笑い声}

07020B: そんな大丈夫よ

07021C: ほくも女性、ギャルはもう鬼より怖い、(笑い声) 急に歌とか歌うギャルは、耳が聞こえなくなっちゃう

07022MC1: ええと、細長いごみ

07023D: なんですか

{自分の足を叩く}

07024MC2: こわこわこわ

07025A: 田中なんかね、ちょっと違うんですよ、女の子に苦手されてる芸人なんですよ

07026D: 違うんですよ、こっちが苦手なんです。こっちが主人公です。